



令和4年12月5日発行

立山町教育センターだより 号外26

立山町教育センター 〒930-0221 立山町前沢 3318 TEL: 463-4407 FAX: 463-6622 URL: <http://www.tateyama-c.tym.ed.jp>

前号を受けて、高野小学校より早速情報を提供したいとの意向が示されました。連絡を受けたときは、大変うれしく思いました。学校では「知」「徳」「体」のバランスのとれた教育を推進しなければなりません。各校での学校保健委員会の取組が区域内に広まり、児童生徒の健全育成につながることを願っています。引き続き、掲載の連絡を待っています。

本校の学校保健委員会報告

高野小学校

テーマ：メディアと上手につきあって心身の健康を守ろう！パート3

学校保健委員会で、メディアとのつきあい方について考えるのは3年目になります。これまで、各家庭でメディアを使うときのルールを決め、定期的にメディアコントロール週間を設けて日ごろのメディア使用を振り返りながら継続して取り組んできました。

ゲームは1日2時間までにしよう。寝る1時間前にはメディアを使うのをやめよう・・・などこのようなよい行動については、大多数の児童は分かっていると思われます。しかし、家庭で決めたルールを守る児童が多くないところに課題があります。

そこで、今年度は、東部教育事務所 指導課 主任生活指導主事 梶尾徹先生を講師にお迎えし、ネットとの上手なつきあい方についてもう一度考える機会をもちました。

梶尾先生から教えていただいたことをまとめます。



- ① そもそもルールを守ろうとする自覚がないのか
- ② 守りたくても我慢できずに、ルールをやぶってしまうのか



①の場合

「何のためにルールを決めたり、制限をしたりするのか」ということを、「自分にとってその方が得・うれしい・幸せ」ということに納得しなければ、ルールは「ひとごと」で終わります。子供自身が納得した上で、ルールを決めることが大事であり、ネットにどっぷりハマってしまうことをやめさせるには、「やめたい」という欲求をもてるようにすることが必要です。

ネットにどっぷりハマらないようにすることは、誰のためでもない、自分の幸せ(健康)のためであるということについて、子供たちに分かりやすいようにお話していただきました。

②の場合

小・中学生はネット娯楽に対する自制が難しいということを実感させることが必要です。自分はダメな人間だなんて思わなくてよいし、意思が弱いのでは無いのです。

賢い人たちが、人々が興奮してどっぷりハマるための刺激的なゲーム(動画)を作成しているのです。そんな楽しくて仕方がない状況を、自らの意思でストップさせることなど大人でさえ難しい。脳が発達段階であり、あらゆる状況において適切な判断を下すのがまだまだ難しい子供たちにとっては、並大抵のことではありません。

では、どうすればよいのか。「他人の力を借りるのが一番」となります。他人とは？仲の良い友達と「ラインは8時までにはしようねと約束する」、親に「8時になったら携帯を預かってもらう」というのもよいです。

ポイント、親や先生に強いられてするのはなく、使用を自制する気持ち子供自身がもつことだそうです。子供たちが、自分の心と体は自分でつくることの大切さを感じることができるようになるためにはどうしたらよいか・・・日々考えながら、今後もメディアについての取組を継続していきます。

文責 高野小学校 養護教諭 寶田 真実



うれしい・たのしい・きもちがいい日を過ごしたい

今日だけではなく、1年後、2年後・・・10年後も

そのために必要なのは「心も体も元気！！」ということ

